

語解せず、馬卒に所の名あるいは花の名、又は行程を問ふに、通る事は稀なり。無言にて笑ふのみ。まま興もありし事也。と記されています。

魚供養塚

夜叉袋集落の入り口に建っています。ここには一里塚もありましたが今その跡はありません。

庚申塔や石仏

夜叉袋の入り口の魚供養塚から2、30mほど崎の左手に並んでいます。ここから50mほど行くと諏訪神社が鎮座していますが、この周辺一帯は古寺跡といわれています

[参考資料：歴史の道調査報告VI「北部羽州街道」
秋田県教育委員会]

“菅江真澄も歩いた歴史の道「羽州街道」” から
NTT東日本秋田支社

やち

八郎潟町 やち 谷地

1. 谷地

「ヤチ」は低湿地を意味する地名用語で、アイヌ語の「ヤチ」すなわち湿地が起源。東京近辺では、草茂りのある所を「ヤ」という。佐渡でも水多き低地をヤチ(谷地)またはフケと呼ぶ。

(1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名)

2. 谷地

久保・野田・谷地中。これらは湿地・低地の意味。
(五城目町史から)

ワ 行

わきひら

八郎潟町 浦大町 わきひら 脇平

「ヒラ」はタイともいい「坂、傾斜地」のことで、平地ではない。長崎県小長井地方では屋根の傾斜を「ヒラ」という。平沢の「ヒラ」はアイヌ語の「ピラ」で傾斜地、坂、崖の意である。

(1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名)

*** 参考文献 ***

- *01 1988年 「地名譚」ぬめひろし著
- *02 1980年 「角川日本地名大辞典」5 秋田県
- *03 1977年 「八郎潟町史」八郎潟町
- *04 1987年 「新編・秋田の地名」三浦鉄郎著
- *05 1996年 八郎潟町広報「地名と歴史」畠山四郎
- *06 1998年7月 中羽立 村井西二郎談
- *07 1994年 旺文社「古語辞典」第6版
- *08 2000年 「中野康明の雑学ページ」HP
- *09 1999年 「菅江真澄」読本3 うとう「考」
田口昌樹著
- *10 1989年 「新版・秋田県の歴史散歩」山川出版
- *11 1998年 「中世の八郎潟町」北嶋雄一著
- *12 1995年 「解説秋田方言」北条忠雄著
- *13 1987年 「新編・秋田の地名」三浦鉄郎著
- *14 1984年 「郷土伝統文化調査報告書」
八郎潟町商工会
- *15 1913年 「一日市村郷土誌」
- *16 1976年 「羽後の伝説」木崎和廣著
- *17 1998年 小池 千田平三郎談
- *18 1998年9月 小池 斎藤甚之助談
- *19 1989年 「改訂版秋田の歴史」新野直吉著 なおよし
- *20 「歴史の道調査報告IV 北部羽州街道」
秋田県教育委員会
- *21 1981年 「古代史上の秋田」新野直吉著
- *22 1988年11月 浦大町 北嶋鉄之助談
- *23 1997年10月 「ラルート 3号」